令和５年度本庄保健所所管区域難病対策地域協議会　議事概要

１　日　時　令和６年２月９日（金）午後７時～８時３０分まで
２　形　式　ZOOM によるオンライン開催
３　出席者
【委員】９名
富沢峰雄委員、倉林典之委員、内田聡子委員、美原盤委員、本間宏之委員、
坂口良幸委員、豊田直哉委員、奥田幾代委員、遠藤浩正委員
（委員９名中９名出席）
【関係機関】
障害者生活支援センターさわやか（梨花の里）
児玉郡市障害者基幹相談支援センター　You＆I ほみか
本庄市　危機管理課、地域福祉課、障害福祉課、高齢者福祉課
美里町　総務課、保健センター
神川町　保険健康課
上里町　町民福祉課、くらし安全課
【事務局】本庄保健所　職員５名
【傍聴人】なし
４　議事内容
（１）本庄保健所管内の難病対策事業について
・資料４に基づき、事務局から説明。
・避難行動要支援者名簿及び個別避難計画の状況について管内市町より報告。
〇質疑なし
（２）災害対策について
「在宅療養者に対する災害対策を通して」（講話）
講師　医療法人　康曜会　プラーナクリニック　臨床工学技士　阿部　博樹氏
・災害時では、使用中の医療機器や病状により、在宅避難になる可能性もある。そのため、個別性に合った災害時のマニュアルを作っておくことが望ましい。特に、人工呼吸器等を装着している場合、停電対策は必須である。停電は地震だけでなく、洪水や降雪で起こる可能性もある。普段から災害対策の準備や災害時のシミュレーションを実施しておかないと、実際に起きた時に行動するのが難しい。
まずは使用している人工呼吸器や酸素濃縮器等のバッテリーの有無、稼働時間を把握しておく。医療機器のバッテリーの持ち時間は、外気温に影響を受けることがある。
・在宅療養者（筋萎縮性側索硬化症）の自宅で実際に行った災害時シミュレーションを行った経験から、停電となった場合、まず避難か自宅待機かを検討する。自宅で

ある場合、電気供給方法等について、家での動線も含め具体的に、何度も確認できると良い。

〇質疑なし

（３）意見交換

【奥田委員】

当事者である夫が終日人工呼吸器を使用していたため、長時間の停電を不安に思っていた。今回の講師である阿部氏に車から電気を取る方法を教えてもらい、災害時シミュレーションを自宅で実施した。５、６回と練習を重ねるうち、スムーズに出来ると思えるようになり、安心した覚えがある。災害は突然起こるものであり、患者や家族はパニックになると思うが、落ち着いている時の練習こそ大切だと思う。

【富沢委員】

筋萎縮性側索硬化症の患者を受け持った際、東日本大震災を経験。停電となったが、患者宅に軽油が燃料である自家発電装置があった。その後計画停電となり、停電が長期化する一方、ガソリンや軽油が手に入りにくい状況になった。首都直下型地震等、影響が数週間に渡った場合、エネルギー供給装置自体のエネルギーが不足することもありうるので、重層的にシミュレーションをしなくてはならないと考える。

【倉林委員】

いざという時に慌てないことが大切であるが、日頃から繰り返しトレーニングを行うことが重要であると、講話を通して感じた。

【内田委員】

講話で災害に備えた準備、シミュレーションが必要であるという話があったが、薬に関しても準備が必要。災害時には、医療機関や薬局が被災して処方が出来なくなる、医薬品の供給がストップすることも考えられる。薬局からの処方薬は、主治医と相談し、一週間程度備蓄してもらい、避難の際、速やかに持ち出せる等が出来ると良い。難病患者さんの治療薬は抗パーキンソン病薬やステロイド等、中断することで急激に病状が悪化するような場合があるので注意が必要。お薬手帳や緊急支援手帳は、医師や薬剤師が一目で内服薬を把握できるので持っていてほしい。また、かかりつけ薬局に気軽に相談も出来るので、普段から関係を築いてもらうことが、災害時にも役立つと考えられる。薬剤師会も、今後、患者さんと家族が安心した在宅療養が出来るよう、地域全体で連携したケアを行っていきたい。

【美原委員】

本庄保健所管内の取組みは凄いと感じている。難病患者に対し行政や地域の医師がチームとして協力し合っているのは、ある意味で羨ましいとも思う。非常にいい試みであり、講話も勉強になった。

【本間委員】

全国の地域で難病患者を含めた災害対策を構築しているモデル地域はあるか。

（遠藤委員）
難病患者の災害対策は端緒についたばかりであり、制度化されている地域等は、把握していない。
【坂口委員】
ケアマネージャーとして、普段の業務の中で、不測の事態は意識して考えるようにしているが、災害時までは思いが至らなかったと実感した。難病の方はもちろん、高齢者は災害時に行動が取れなくなってしまう等のリスクやハンディを背負って生活をしている方が多いので、今回の気付きを事業所内のみならず、同じ専門職でも共有したい。
【豊田委員】
能登半島地震の関係で、防災管理者の資格を受講した。改めて訓練の大切さを、講話を通して感じた。生命維持装置は命に関わる部分であるので、充実した設備などが増えていったら良いと感じる。
【遠藤委員】
難病患者の災害対策は今後もやるべきことが多いと感じている。難病患者含めた要支援者の命と安全をどう守っていくかということは、保健医療政策の一環として、防災対策の繋ぎの部分にまだ課題があると感じている。委員の皆様の御意見を踏まえ、保健所としても取り組むべきところと、県全体として考えていく部分については、県庁に働きかけを行っていきたいと考える。
〇関係機関からの質問なし